

「正義というものはいったい何か。ミサイルで相手をやっつけることなのか、あるいはそこに来た怪獣をやっつけることなのか。僕はそうでないと思ったのね。本当の正義の味方だったら、そこにお腹をすかせた子供がいたら、その子供にパンをわけて与える人が正義の味方なんだと思ったんです」。やなせたかしさんが亡くなる一年ほど前に行われた“最後のインタビュー”でのコメントだ。

アンパンマンの絵本が世に出た60年代、評判はさんざんで、評論家や編集者から袋叩きにあった。幼稚園の先生からも酷評され、「図書館に置くべきではない」とさえ言われた。「自分の体をちぎるような残酷なものはだめだ」と。だがその後評価は一変する。何と幼稚園の絵本はたちまち読まれすぎてボロボロになり、図書館ではいつも“貸し出し中”、幼稚園や保育園を中心に注文が殺到したのだ。その後90年代のテレビでのブームを経て、今や総売り上げ1兆1千億円に達し日本国内最強キャラクターに成長した。

「アンパンマンの中にあるのは『献身』なんだよね。正義は自分を犠牲にしなければどうしても出来ない。自分が傷つくことなしには出来ない、という僕の考えが入っているんだよね。」と言う やなせ氏。実は聖書にはアンパンマンがいる。ずばりキリストだ。

「わたしが命のパンです。私に来る者は決して飢えることがなく、私を信じる者はどんな時にも、決して乾くことはありません。私の肉を食べ、私の血を飲む者は、私のうちにとどまります。」ヨハネの福音書6章35・56節。

しかもこの説教を聞いた人たちの反応が傑作だ。

「これはひどい言葉だ。そんなことを誰が聞いておられようか。」同60節

と。もうお気付きの通り、やなせさんは聖書を根本的に理解している人と言ってよい。元祖アンパンマンであるキリストは、あなたのために献身した最強のキャラクターなのである。

